

[表12] 館外個人貸出登録人員と貸出冊数
(昭和41年度を100としたときの指数)

年度	人員(人)	指数	冊数(冊)	指数
昭和41年	1,396	100	16,410	100
" 42	1,690	121.1	21,034	128.2
" 43	2,793	200	28,567	174.1
" 44	3,135	224.6	31,899	194.4
" 45	3,734	267.5	40,324	245.7

表13] 調査相談事務の取扱件数
(昭和41年度を100としたときの指数)

年度	取扱件数	指数
昭和41年	361	100
" 42	459	127.1
" 43	427	118.3
" 44	474	131.3
" 45	580	160.7

第4節 館外奉仕

1 移動図書館および貸出文庫

当初予定した巡回も旅費の値上がり等から完全巡回があやふまされたが、財政当局の理解を得て、計画どおり巡回してきたことは幸いであった。特に例年であれば降雪のために最も利用される期間巡回できなかつた会津方部が比較的降雪量が少なく、初めてこの時期に巡回を実施し住民に喜ばれたことは特筆されてよいだろう。

しかし資料面において在庫補助が打切りとなつたため図書の購入が105万円と大幅に削減され、資料面で利用者の期待にこたえ得なかつたことは残念であった。山間辺地に居住する県民の新刊書によせる期待は想像以上のものがあり、この希望を満たすことがまず第一であろう。

社会環境の変化は過密、過疎現象を起し、巡回地域の再整備等に迫られて来ている。今後はこれらの問題を十分検討し、効果的な巡回奉仕につとめて参りたい。

その利用状況は[表14、15]のとおりである。冊数においてのびを見せていないのは、古いものを除去し、新しいものをつとめて配本するという図書館側の意図から、冊数の多寡を問わなかつたためである。

2. 普及文化事業

(1) 著者と読者のつどい

第18回福島県図書館大会と同時に、情報化社会における図書館が当面する諸問題について協議した。とくに長年図書館界に身をささげた加藤講師の講演は参集者に深い感銘を与えた。

- と き 昭和45年10月20日(火)
- と ころ 白河市中央公民館
- 記念講演 駒沢大学図書館長 加藤宗厚氏

「新しき図書館道」について

○研究討議

第1部会 図書館部会

図書館の相互協力はどうあるべきか。とくに移動図書館の運営と資料(新聞、雑誌)の保存等について

第2部会 公民館図書部会

公民館図書館が、公民館でいかに位置つけられているか、また今後の方向はどうあるべきか

第3部会 利用者部会

利用者は図書館、公民館に何をのぞむか。(関係行事、調査相談、貸出を中心にして)、

○参加者 図書館、公民館、社会教育関係者、利用者 120名、

(2) 第21回地方史研究講習会

○と き 昭和45年11月27～28日

○と ころ 福島県文化センター 歴史資料館

○講義と講師

「元禄時代の諸問題」

学習院大学教授 大石慎三郎 氏

「近世資料の取り扱い方」

庄司吉之助 氏

○研究発表 「最近の地方史研究室の動向について」

4人

○参加者 140名

(3) 北日本整理部門研究協議会

北海道、東北六県からなる北日本図書館連盟の当番県となり、次のように実施した。

○と き 昭和45年11月5～6日

○と ころ 福島市飯坂町 あづま荘

○講義と講師

「図書の選択」

国立図書館短大助教授 小野泰博 氏

○討 議

1. 公共図書館における望ましい蔵書構成

2. 図書選定のための組織

○参加者 40名

(4) “ふくしま文学散歩写真展”

写真随筆家 大竹新助氏撮影による写真展を開催した。

○期 間 昭和46年1月11～16日

○点 数 32点 (真船豊の生家、冬の猪苗代湖、三代の宿、勢至堂峠、智恵子の生家、二本松少年隊の墓、中山義秀の生家跡、天山文庫、平伏沼、開成館、白河の関の明神、白虎隊の墓…)